
一緒に歩む道

ユズポン

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

一緒に歩む道

【Nコード】

N2243J

【作者名】

ユズポン

【あらすじ】

新蘭大晦日スペシャル！？新一帰って来ました話です。

ブルルルルルルルルルル???

大晦日の朝。毛利探偵事務所に、電話の音が響き渡った。

「コナン君ー！！私手が離せないから代わりに出てー！！」

キッチンから、蘭の元気な声が聞こえる。

「はい???」

ガチャ

「もしもし???毛利ですけど???」

電話の相手は、意外な人物だった。

「工藤君?私よ」

「灰原?どうしたんだ?珍しいな、お前から電話が来るなんて」

「???まあね。あなたにとって

いい知らせがあるわ。」

コナンは大人しく哀の話を聞いていたが、突然電話を切り上着を着て、探偵事務所を飛び出した。

「コナン君ー?電話誰から???っていない???」

阿笠邸・・・

バンッ!!

激しく開いたドアの先にいたのは、息を切らし肩を上下させたコナンだった。

「あら工藤君。早かったわね」

哀は紅茶を飲んでいた手を止め、顔を上げた。

「灰原???本当???なのか?解毒剤が出来たってよ???」

「あら、私が嘘を付く理由がどこにあるのかしら?」

「それはそうだけどよ???まだ組織を倒してから一週間ぐらいしか経ってねえのによく出来たなあって???」

そう。コナン達は一週間前に組織を倒したばかり。蘭には、博士と

旅行に行く、と言ってあつたのだ。

「はい、これ。解毒剤。着替えは地下室においてあるから。」

「おう、サンキューな!!」

そしてコナンは地下室に消えた。

（さよならコナン君??? 私、あなたの事が好きだったわ??? そして今も???）

地下室・・・

「やっとこの時が来たんだな???」

コナンは、解毒剤を見てそう言った。

「最初に蘭に会いに行かないとな???」

そして一気に解毒剤を飲んだ。

ドクンッ

（来たあ???!!）

「???う???」

ドクンッ

ドクンッ

「???うわあああああ!!!」

「ハア、ハア???」

数分経ち、コナンは工藤新一の姿に戻っていた。

「久しぶりだな??? 工藤新一」

そう微笑して、着替えを済ませ、階段を上がった。

「よお灰原???」

「ええ。蘭さんの所に行くんでしょう?」

何でもお見通しだな??? 新一は思ったが言わなかった。

「???ありがとな、灰原」

「???!!!」

「じゃ」

新一の去って行く後ろ姿を見ながら、哀はため息をついた。

(言えないわよね??? 工藤君の高校生姿に見とれてたなんて???)

ピリリリリリリ??????

毛利探偵事務所、蘭の携帯が鳴った。

「もしもし?」

「俺だけど???」

電話の相手は、待ち望んだ人。

「新一?????」

「ああ。今窓の下にいるんだけど???」

「え? 厄介な事件は?」

「???? 後で話すから???」

ガラッ

いつの間にか、雪が降り始めていた。

下を見ると、新一が笑顔で立っていた。

「新一?????!」

急いで階段を降りて、新一の胸に飛び込んだ。

「蘭????」

「今までどこに行ってたのよ!!! 心配したんだから??? 寂しかったんだから???」

「蘭???? 俺、お前にいつとかなきゃいけない事がある」

「何?」

新一は真剣な瞳で言った。

「???? 俺が関わっていた厄介な事件の事」

「????」

「一緒にトロピカルランドに行ったあの日、黒ずくめの奴、いただろ? 帰りに別れた時、あいつらの取引現場??? 見たんだ。見るのに夢中になっていた俺は、もい一人の仲間に棒かなんかで殴られて??? で、口封じのために薬を飲まされてさ。その薬で幼児化しちゃったんだ。そして幼児化した俺の新たな名前が。」

「まさか???」

蘭が、顔をあげて口を開く。

新一はふつと笑って言った。

「江戸川コナン。」

「そうだったんだ???」

蘭は感慨深気に頷いた。

「で、私に言いたかった事って、何?」

「え?」

「ほら、展望レストランで言ってたじゃない。」

「ノノノじ、じゃあ言うよ???」

新一は赤くなつて言った。

「俺は???蘭が???好きだ!!!!!!」

待ち望んだ言葉。

蘭もまた顔を赤らめて言った。

答えは決まっている。

「私も好きだよ???新一!!」

そして二人は雪の中でキスをした。

これからは一緒に歩いて行こう???ね?

（後書き）

ふー。終わりました。

他の作品もよろしくですっ！！

では！よいお年を！！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2243j/>

一緒に歩む道

2010年10月8日23時02分発行